

Tokai Fubokon Letter



~2023BIG フェスティバル~



[11月5日(日) 金城埠頭メイカーズピア]

今年は4年ぶりにフルスペックでの「BIG フェスティバル」開催となりました。

愛知県の高校生が学校の垣根を越えて総勢6,000人、希望プロジェクト1,000人、群舞600人が参加し、終日多くの生徒、父母、教員で溢れかえり大変な熱気に包まれていました。

メイン会場となるイベントスペースでは、模擬店の準備のため、開場と同時に生徒、教員、父母が慌ただしく動き回り、さらにステージ前ではBIGフェスの主役である中高生たちが大人気で群舞の練習をしていました。午前10時、いよいよスタートです。

[各学園の活動]

東海からはジャグリング部とアンリミテッド・ブレーカーズが参加。練習に練習を重ねてきたジャグリング部の



ジャグリング部の練習風景

数々の技と、アンリミテッド・ブレーカーズのアクロバティックな演技は会場を大いに盛り上げてくれていました。

[模擬店]

東海からは3店舗(東海学内フェス・中3有志・中2有志)が出店し、デコレーションマシユマロ、みたらし団子



を振舞ったり、くじ引きで来場者を楽しませてくれました。どの店舗も工夫を凝らしたサービスが提供され、訪れた人を満足させていました。

[希望プロジェクト2023]

大村知事が予定より早く来場され、模擬店巡りなどを楽しまれ会場内を観覧。異例の1時間の滞在となりました。そんな中、生徒会共同声明が行われ、東海を含む34校が登壇し、希望プロジェクト2023がスタートしました。

「平和・私学無償化の拡充への思い、そして人は変わることができる、社会も変えることができる」



と高らかに始まり、参加校による各ステージパフォーマンスはとても見応えがありました。最後に、

愛知私学の生徒と東海父母・教員含む父母懇合唱隊による合同合唱と東海オーケストラ率いる合同オーケストラの演奏で、群舞隊600名によるオールキャストの「Happiness」が披露されました。



[大村知事より]

希望プロジェクトを通し、生徒たちの思いをしっかりと受け止めてくださいました。

「我々大人は、皆さんが希望を持っているいろんなことにチャレンジし、学校に通い、勉強やさまざまな学びを体験をしていただく、そのような機会を増やし、またその環境をしっかりと整えていきたいと思ひます。私学の振興と教育の充実のために、頑張ってやっていきますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。」と温かい言葉とエールを会場の生徒たちに送ってくれました。毎年の積み重ねにより、大村知事の心も少しずつ動かしていくことが感じられた BIG フェスティバルでした。休日にもかかわらず金城埠頭まで足を運んで下さった皆さま、ありがとうございました。



~東・中オースタムフェス~

[11月19日(日)東海中学高等学校明照殿]

当日はお天気に恵まれ、秋晴れの下450名を超える来場者を迎えて盛大に開催することができました。

[食堂企画]

午前中は、「レザーバーニング」「サシェ(香り袋)」「アロマスプレー」「リボンフラワー」「消しゴムハンコ」「LEGO でロボット体験」などのものづくりを中心とした講座企画と、網の目教育懇談会を実施しました。講座企画は、近隣の小学生の親子連れをはじめ、各講座とも大盛況で、製作に時間を要するものづくりにもかかわらず、参加者が



20名を超える講座も複数ありました。

[大回廊下]

東海父母懇サークルの「かんげき」「イデアール」「テイスト」、愛知父母懇平和サークル、淑徳、椋山、名古屋、至学館、高フェスの9つの模擬店が出店しました。コロナ禍でできなかった模擬店も開催できるようになり、五平餅やみたらし団子、たこ焼きなどの定番から、炊き込みご飯、カレー&ナン、たい焼き、焼きとりに至るまで、魅力あるラインナップで来場者をお迎えしました。



[明照殿下]

至学館高校書道部による迫力ある書道パフォーマンス、東海ジャグリング部の完成度の高い演技が披露され、会場入口の賑わいに華を添えてくれました。本館横のピロティでは、コロナ前は恒例であった子ども企画が復活しました。子どもたちは様々なゲームに夢中になって取り組み、おみやげのお菓子を満面の笑みで受け取っていました。



[明照殿]

オープニングに先立って行われた部活動発表では、東海中高合唱部の男声合唱、振甫中学のコーラスに引き続き、淑徳中学フルーツ同好会の演奏が行われ、応援にけつけた皆さんを中心に、大きな拍手が送られていました。こうした格調高い音の世界が展開する



東海中高合唱部

なか、来賓の愛知県議会議員、名古屋市議会議員が入場されました。学園登壇者として、東海中高近藤辰巳校長はじめ金城学院中高、名古屋中高、至学館高校、



東邦高校、椋山女学園中高、愛産大工業高校と各学校の関係者の方々が相次いで着席されました。

[希望プロジェクト]

平下裕章先生による指揮のもと、東海中高オーケストラ部による演奏に合わせ、生徒たちの合唱と高校生フェスティバルの群舞、振り付け付きの東海父母を中心とした合唱で作上げられた「Happiness」に会場から大きな拍手が送られました。

[式典]

近藤辰巳校長から学園を代表して挨拶があり、これまでの県・市の私学助成拡充の取り組みに対する感謝が述べられました。東海中高記念祭がコロナ禍を乗り越えてフルスペック開催されたことに触れ、「生徒の自主活動が行事として花開き、地域に発信できることは大変誇らしく、喜ばしいことです。

このような生徒の成長の場を保障していくことがわたくしども大人の使命だと思っております。未来の希望である生徒の皆さんが安心して学ぶことができるよう、我々私立学校では、建学の精神のもと、教育に邁進してまいります。」と語られ、さらなる私学助成拡充への期待を述べて挨拶を結ばれました。



県議挨拶では、私学の公教育性を明確に指摘することばかり、私学助成拡充へのさらなる努力を行う旨の力強い発言が印象的でした。

市議は、希望プロでの高校生の澁刺とした笑顔の感化力を力説されました。オースタムフェス中央実行委員会副委員長の基調報告は、子どもたちを取り巻く

厳しい背景を指摘する一方、高フェスの平和企画、学校の垣根を越えて生徒・父母・教員が作り上げた教育の祭典「サマーセミナー」などの確かな成果が語られ、私学助成拡充への力強い期待を発信されました。

[式典の後]

平和企画として、椋山の日本一のフラダンスチームの艶やかな舞踊、椋山高フェス生徒による熱田空襲の紙芝居



による語り継ぎと、西形久司先生によるミニ講演会企画が開催されました。明照殿前には大須の復刻地図も展示され、平和の尊さを理念のみに頼らない形でしっかり伝える絶好の機会となりました。

明照殿の外では賑わいを見せ、明照殿の中では厳かな雰囲気です式典が行われ、地域への私学の魅力発信と議員への公私格差是正の訴えを無事果たすことができ、東・中オースタムフェスが幕を閉じました。ご参加いただいたすべての皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

春日井 秋の懇談会『10/22』

～シリーズ『知りたい』隣の地域懇～

10月22日(日)スタディホールにて秋の春日井地域懇談会が開催されました。地域担当の先生は、稲森裕之先生(中学教頭・国語科)と、杉浦一輝先生(高校・数学科)です。そして今回は玉井宏志朗先生(高校・英語科)、OBのお母様1名、OB1名をお迎えし、35名の参加者とともにそれぞれのお話を伺いました。稲森先生は“理系東海における文系の底力”と題して、文壇で活躍される東海OBについて、在学中のエピソードなどを交えお話くださいました。OB

でもある玉井先生はご自身の在学中と比べ、「今は東海生が真面目になってしまった。古き良き東海生本来の



姿に戻すべく日々試行錯誤している」とのことでした。OBのお母様はご息子とのリアルな会話を紹介してくださいました。ご息子の言葉を丁寧に受け取り、見守り方を模索されたお母様のお話をみなさん聞きながら聞き入っておられました。OBの方は東海生らしい(?) 楽しい思い出をたくさん語ってくださいました。東海生活のリアルが伝わってくる本として「キケン」(有川浩著)をご紹介いただきましたので読んでみようと思います。杉浦先生は「子供が自ら歩んで失敗して学んでいくのを見守ることが大切」「東海で用意されている様々なステージで経験と友を得ることが受験に向かうエネルギーとなる」など、メモを取りたくなるお話満載でした。その後は各学年テーブルにゲストを交えての分散会、時間内に収まらないほど話題は尽きない様子でした。



今後も春日井地域懇談会がにぎやかであることを願いつつ、ご参加いただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。



編集後記

オータムと言えば、個人的に一番好きな季節なのですが、今年は残念ながら秋を感じることなく冬に突入?と思ったら…今年は季節を感じることはない年になってしまいました。そんな中、我が家もクリスマスツリーを飾りました。私にもサンタが来ますようにと僅かな期待をしつつ、自分がサンタになるしかないようです。その頃には大掃除にお正月の準備に追われる自分が見えてきました。今年のうちに終わらせるようにしたいものです。

広報部